

山梨県立ろう学校第3回学校運営協議会 協議結果等について

日時：令和7年2月26日（水） 10：00～12：00

場所：山梨県立ろう学校 文化交流会館 交流ホール

<次第>

- 1 開会の言葉
- 2 会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 議事 <議長：会長>
 - (1) 令和6年度学校評価（年度末自己評価）について（教頭）
 - (2) 令和6年度学校評価（学校関係者評価）について（教頭）
 - (3) 次年度以降の本校の課題と取組
及び学校運営協議会委員の選出について（教頭）
 - (4) その他
- 5 報告
 - (1) 第3回いじめ実態アンケート調査について（教頭）
 - (2) ろう学校交流及び共同学習について（渉外交流主任）
 - (3) その他
- 6 連絡事項
 - (1) 令和7年度学校運営協議会開催日程について
 - (2) その他
- 7 意見・懇談（各委員緒方々から）
- 8 閉会の言葉

※ 会中盤 幼稚部見学

※ 会終了後 給食試食会（希望者）

<会長あいさつ>

- ・これまでの学校運営を振り返りたい。インクルーシブ教育が叫ばれる中、ろう学校がどうあるべきか考えたい
- ・熊本、阪神淡路の復興 障害者の避難等が話題になる
- ・今年度、大学における合理的配慮の取り組みが義務化。いかに啓発していくか課題である

<学校長あいさつ>

- ・学校教育目標について
- ・全国聾学校作文コンクール入賞、全国総合文化祭入賞等の紹介

- ・外部に出かけて活躍している。芸術文化祭等
- ・温便座設置、図書館デジタルサイネージ設置、寄宿舍整備、交流会館エアコン設置、校内道路整備、屋根工事
- ・校内研修、ICT研修の実施
- ・学校運営協議会3年目
- ・デフリンピック開催。卒業生等の応援を考えている

<議事>

(1) 令和6年度学校評価（年度末自己評価）について

○資料説明

平均値が低い項目について説明

教員が課題を感じている項目について説明

自己評価結果と次年度への課題について説明

○質疑

⇒ 委員より

- ・2学期制になつての課題は。

→メリットとして授業の切れ目がなく続けていくことができた。テストの回数減・始業式等学校行事減で授業確保。

課題としては、授業を長期的に確保できているが、その目標の設定や組み立て方。授業の中で幼児児童生徒の力がついているのか。

⇒ 委員より

- ・2学期制はいつから実施されたか。

→3年が終了する。

(2) 令和6年度学校評価（学校関係者評価）について

○資料説明 評価欄に記載の依頼。3月5日〆切 forms で回答

(3) 次年度以降の本校の課題と取組及び学校運営協議会委員の選出について

○資料説明（R7の取り組みについて）

- ・地域での活動が増えてきている。

- ・聴覚障害理解の啓発をまずは身近な地域から発信したい。

○質疑

⇒ 委員より

- ・ろう学校＝手話だけでない。読み・書きの力をつけていく必要がある。音声、手話、文字のセットで大事にしたい。

- ・ろう学校を身近に感じてもらうきっかけとしての手話。そのきっかけでろう学校の教育を知ってもらう必要がある。

→コミュニケーションをとるためには、表情、聴覚活用も大切。このきっかけで地域に出て行ってもらいたい。幼児児童生徒も積極的にかかわってもらい

たい。負担にならないように調整しながら進めていきたい。

(4) その他

特になし

※ 校内見学（10：55－11：10）：幼稚部すもう大会

<報告>

(1) 第3回いじめ実態アンケート調査結果について（教頭）

○資料説明

→質問等なし

(2) ろう学校交流及び共同学習について（渉外交流主任）

○パワーポイントで説明

→質疑等なし

(3) その他

<連絡事項>

(1) 令和7年度学校運営協議会開催日程（予定）について

第1回 4月23日（水）

第2回 10月23日（木）

第3回 2月25日（水）

(2) その他

<意見・懇談（各委員の方々から）>

委員1

- ・音声がわかる人もいる。聞こえない人に慣れていない人もいる。自分が言いたいことを伝えられことが大切。聞こえない世界の情報量は少ない。親がいなくなったあとの生活を考える必要もある。

委員2

- ・学校内容がわかってよかった。自分たちの発信が生かされていくと嬉しい。社会に出た時に生活しやすい社会になるよう啓発したい。

委員3

- ・学びがたくさんあった。知らないところでいろいろな方が子供たちに成長に関して考えてくださっていることがわかった。
- ・高等部の制服を変えてみるのはどうか？古さを感じる。他の高校の制服を見る機会があるが、気持ちも高まる。暑さの対策も考える必要がある。ポロシャツは下が透ける。女子でもパンツの選ぶことができる時代。

委員4

- ・地域交流担当。エリアウェブで紹介している。
- ・交流及び共同学習が行われていることを知らない先生方もいるかもしれない。啓

発していきたい。

委員 5

- ・春日居中の学園祭で字幕がつけられたことはうれしい。子供たちの発信の成果であると思う。
- ・伝える力を育てる。いろいろな手段があることを啓発することも必要。立川はバスに筆談するための道具がある。

委員 6

- ・社会において聞こえない人の環境が整えられていない現状がわかった。
- ・大学では聴覚障害生のためのパソコン通訳を学生が行っている。職員向けに月2回くらい手話講習を行っている。
- ・読み、書きをどのように伸ばしていくか。プロセスの確立が大切。
- ・どのように生きていくのか。セルフアドボカシー。大学でも大事にしている。合理的配慮をうけるために自分から発信してもらうようにしている。卒業したら社会に出る。このことについて取り組んでいく必要がある。当事者だけでなく環境も整える必要がある。

校長

- ・石原さん。絵日記から。きっかけづくりを作っていきたい。多くの方に聴覚障害者について知ってもらうことが大切。そのきっかけで教育活動に生かされる。
- ・規程類集を整えている。
- ・SOSが言える子供を育てたい。

※ 会終了後、給食試食会